

## 四十六 「中根式速記スピードメモ法」発案

中根式速記は兄が創案したものです。それが大正三年五月十一日、大阪毎日新聞によって公にされ、その当時最も進歩的な速記といわれた熊崎式速記の創案者熊崎健一郎さんから、「幾多斬新なる法則あるが、中にもインツクキの妙用に至っては、只管敬服の外無御座候」というお手紙をいただき、日本一の代表速記になったのです。私はその翌年からこれを始め、いろいろ簡単に書く工夫を加え、少しばかり手入れしながら普及して今日に至っているのです。幸いにして多数の熱心な人々が研究に普及に力ぞえしていただいていることは誠にありがたく感謝に堪えないのです。

### スピードメモ法発案

京都で兄と二人で創立した両洋中学の卒業生が何人も京都府の警察官となり、署長さんや、本部の課長さんになっていて人がありました。昭和三十三年八月、当時警察本部の教養課長をしていた両洋中学出身の横内正弘さんが、速記の講習をしてほしいといわれたのでした。市内各署から速記の必要性の多い職場にいる人達を集めて講習会をやっていたのでした。ある日のこと、横内課長さんが「京都府では速記まで教育しているということを東京の本庁に報告する」といわれたのです。私はそのときは本格的な速記を指